

----- (はじまり) -----

タケシ「ほんと、良かった…。これなら大丈夫かも…」

アスカ「あ、それ、新聞で見たよ。福島県と他の県で小児甲状腺癌の発生率に違いがないって記事よね」

タケシ「そうなんですよ。これで一安心です。同郷の仲間にも子供育ててる人もいますし」

アスカ「えっと、確かデータが載ってたわよね。統計的に検証してみる？」

タケシ「そうですね。より安心できますもんね。データはこの記事にあったはずで…、あ、これこれ」

|小児甲状腺癌| 検査人数

-----+-----+-----		
福島県	74人	289354人
他の県	1人	4385人

アスカ「流石に福島県は検査人数が多いわね。約29万人ね。ちなみに、他の県ってどこ？日本全国じゃないわよね。検査人数も少ないし」

タケシ「長崎県、山梨県、それに青森県の3県です」

アスカ「フーン。長崎は爆心地。青森は再処理施設があって、チェルノブイリ原発事故の時は汚染が比較的多かった県ね」

タケシ「く、詳しいですね」

アスカ「前に気になって、ちょっと調べてみたのよ。それに対照となる検査群は放射能汚染がほぼないところが望ましいでしょ」

タケシ「なるほど。でも結果を見ると僅か1人ですから、大丈夫そうですよ」

アスカ「そうかもね。さて、比率はそれぞれ0.000255742と0.00022805か…。0.0256%と0.0228%の違いね。誤差は10%で確かに差はないようね」

タケシ「えっと、この手の検証は母比率の差の検定でしたっけ？」

アスカ「正解。さっそく計算してみるね…。統計量は0.114だから…。確率は45%ね。有意水準5%には全然足りない」

タケシ「すると、差はないってことですよね」

アスカ「そう。福島と他の県では小児甲状腺癌の発生比率に統計的に違いは認められないってこと」

タケシ「良かった。ほっとしますよ。こういう結論は」

アスカ「うーん。でも...」

タケシ「な、何ですか？まだ何か、不安なことでも」

アスカ「他の県で1件しか事例がないから分からないけど、もしも日本全体の小児甲状腺癌の発生比率が上がっているとしたら、逆に違いがないってのは恐ろしいな...と。まるで国民病のようじゃない？」

タケシ「そんなことあるんですか？全国が汚染されているってことですか？でも、小児甲状腺癌って確か100万人に1人の割合ですよ」

アスカ「そう考えると発生比率の0.02%は10000分の2だから5000分の1。100万人に比べると200倍にもなってるよね」

タケシ「でも、全国であれだけ放射性物質の降下量がばらついていてのに発生率と同じってことはないでしょう。何か矛盾を感じますけど...」

アスカ「そもそも、もし他の県で小児甲状腺癌の事例が0件だったら、違いがあることになるわけだし、事例が2件なら福島の2倍だよ」

タケシ「そうか...。そう考えると1件だけってのはちょっと心許ないですね」

アスカ「当事者には不幸なことだけど、福島県以外の小児甲状腺癌の事例が増えないとちょっと判断できないかな」

タケシ「うーん、放射能汚染って、本当に長い戦いなんですね」

----- (つづく) -----